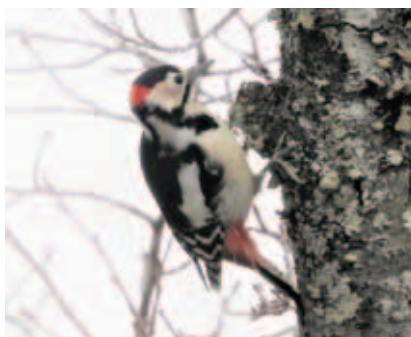


いきものふれあいの里「陶史の森」だより

土岐市ネイチャーセンター
(☎59-5144)



教室のご案内

バードウォッチング（自由参加）

2月23日、3月23日(日)午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤

※冬季は木々の葉っぱが落ちているので、野鳥を観察しやすいシーズンです。

森の中で「トーントーントーン」と木を叩くような音が聞こえます。音がする方を見ると、白・黒・赤の鳥が木をつついています。キツツキの仲間のアカゲゲツです。

全長は24㌢ぐらいで、頭は黒、顔や胸は白、腹部の尾の付け根あたりは鮮やかな赤色です。背面は黒地に白い斑点が交じり、後ろから見ると肩から尾にかけて逆ハの字に見えます。オスとメスはほぼ同色ですが、オスの後頭部には赤い羽毛が生えています。脚の指で幹を抱え尾に体重をかけての3点確保で垂直な幹に

縦に止まり、くちばしを使つて穴を掘つたり、虫を探したりします。木の幹に巢食う昆虫類やその幼虫を食べるためキツツキの仲間は「森の番人」とも呼ばれ、害虫を食べて木や森を守つているとも言われます。陶史の森には、「コゲラ」「アオゲラ」というキツツキの仲間も住んでいますが、アカゲラがいるのは枯れ木か枯れかけた木であることが多いです。

森の中で木を叩く音が聞こえたら、白・黒・赤の三色のきれいな森の番人が見られるかもしれません。

三色の森の番人

アカゲラ

縦に止まり、くちばしを使つて穴を掘つたり、虫を探したりします。木の幹に巢食う昆虫類やその幼虫を食べるためキツツキの仲間は「森の番人」とも呼ばれ、害虫を食べて木

新博物館では、美濃焼と土岐の歴史を伝える常設展示「歴史展示室」を設けます。そこでは、市民の皆さんからの寄贈により収集した資料も展示していく予定です。

※現在、新博物館の開館へ向
中馬街道の宿場だった柿野宿
の当時にぎわいを偲ばせる
資料として、歴史展示室で展
示する計画です。お楽しみに。

縦に止まり、くちばしを使つて穴を掘つたり、虫を探したりします。木の幹に巣食う昆虫類やその幼虫を食べるためキツツキの仲間は「森の番人」とも呼ばれ、害虫を食べて木や森を守つているとも言われます。陶史の森には、「コゲラ」「アオゲラ」というキツツキの仲間も住んでいますが、アカゲラがいるのは枯れ木か枯れかけた木であることが多いです。

芸員は、いま何してる？

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歷史館
(055-1245)



中馬街道筋にあった石仏

新博物館では、美濃焼と土岐の歴史を伝える常設展示「歴史展示室」を設けます。そこでは、市民の皆さんからの寄贈により収集した資料も展示していく予定です。

写真上の石仏は、鶴里町柿野にあったものです。昭和58年に所有者の方が名古屋市へ引っ越し際に持つて行き、移転先で大切に保管されてきましたが、土岐市で保存活用してほしいとのご意志により、令和4年にご寄贈いただきました。

この仏様は、鶴里公民館の近くに昔あった旅籠屋「金木屋」の前に安置され、中馬街道を行き交う旅人や荷馬の安全を見守ってきました。制作年代は定かではありませんが



昭和初期の柿野宿 『鶴里町誌』第三巻下より転載

※現在、新博物館の開館へ向け、地域資料の収集を行っています。特に次のような資料を収集しています。ご寄贈もしくは情報をいただける方は、ぜひご連絡ください。

- ・駄知線に関連する資料
- ・戦時の資料や記憶
- ・伊勢湾台風や47豪雨など災害に関する資料や写真
- ・団体就職の資料や記憶
- ・街並みや行事、製陶風景などを映した昔の写真